2012年後半がキーポイント
オスプレイを止めれば基地が止まる

沖縄では今年の夏以降、アメリカ軍に関連する大きな動きが三つあります。

一つ目は、オスプレイの配備です。アメリカは7月中にもオスプレイを沖縄に搬入し、10月から普天間基地での運用を始めようとしています。

二つ目は、辺野古新基地建設のための海面埋立て申請です。基地建設の前提となる環境影響評価（アセスメント）は最終段階にきています。残っているのは防衛省による評価書の補正で、これが終了すれば、防衛省は沖縄県に海面埋立ての申請ができます。申請は年内にも行われるでしょう。

三つ目は、東村高江でのヘリコプター離着陸帯（ヘリパット）建設の再開です。防衛省は海兵隊北部訓練場のある高江に、新しいヘリパットを作ろうとしていますが、住民の反対運動で着工できません。また3月から6月までは、天然記念物のノグチゲラの繁殖に考慮して工事を控えています。10月にオスプレイの運用が始まれば、高江にヘリパットが必要になります。7月以降、防衛省は工事を強行してくるでしょう。

オスプレイの配備と、辺野古での基地建設、高江でのヘリパット建設は連動しています。オスプレイが配備されてしまえば、普天間基地の暫定使用を長期化させ、同時に新基地建設の動きを強め、ヘリパット建設を進めさせることになるでしょう。

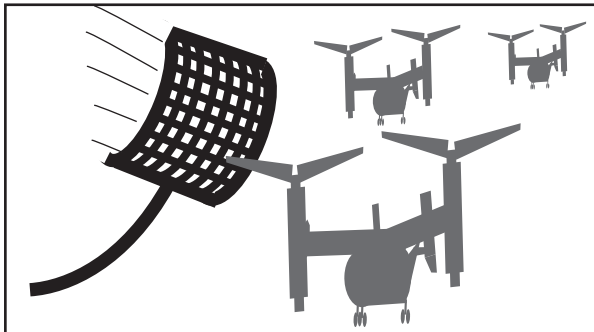
しかしオスプレイの配備を止めることができれば、海兵隊は部隊の運用に支障をきたします。それはアメリカ政府が検討している海兵隊の県外・国外への移転を進めることにつながります。

三つの課題が重なる今年は、沖縄基地問題にとっての大変重要なポイントなのです。

沖縄は今年、本土復帰から40年を迎えました。しかし未だに米軍基地が集中し、人々の負担になっています。

沖縄の人々と心を合わせて、基地問題を解決しましょう。

復帰40年の沖縄平和行進・東コースは、名護市辺野古を出発しました。オスプレイ配備反対で力強くシュプレヒコール。


うるさいぞ!!　オスプレイ

連絡先